

第 3 期地域福祉実践計画

平成 3 0 年度進捗状況最終評価

結果報告書

＜目 次＞

1. 最終評価の概要	P 1
2. 評価結果についての全般的な意見	P 1
3. 具体的な評価の結果	
(1) 平成 3 0 年度進捗状況最終評価総括表	P 3
(2) 平成 3 0 年度基本計画・実践事業進捗状況最終評価表	
①基本計画 1 進捗状況	P 4
②基本計画 2 進捗状況	P 9
③基本計画 3 進捗状況	P 11
④基本計画 4 進捗状況	P 13
⑤基本計画 5 進捗状況	P 14
⑥基本計画 6 進捗状況	P 16
4. 評価内容（参考）	P 21

社会福祉法人 江別市社会福祉協議会
合同(総務・地域福祉)部会

1. 最終評価の概要

- (1) 評価の実施主体 合同（総務・地域福祉）部会
～令和元年度第1回合同部会を開催し評価を実施
- (2) 評価日時 令和元年8月28日（水）午後1時45分
- (3) 評価会場 江別市総合社会福祉センター2階会議室2号
- (4) 評価（出席）委員数 14人中13人

（参考） 委員名簿（令和元年8月28日現在）

（敬称略）

選出団体名	総務部会	地域福祉部会
江別市自治会連絡協議会	深瀬 禎一（理事）	村瀬 脩（評議員）
江別市赤十字奉仕団		堀田 佐智子（理事）
江別市女性団体協議会	工藤 多希子（理事）	
江別市民生委員児童委員連絡協議会	○三橋 満和子（評議員）	◎荻野 富雄（理事）
江別市民間社会福祉施設連絡協議会	市川 茂春（理事）	
江別市ボランティア団体連絡会	金井 征子（理事）	真島 紀恵子（評議員）
江別市共同募金委員会	佐藤 正勝（評議員）	
江別手をつなぐ育成会		有澤 瑞枝（評議員）
江別あすか福祉会		松井 秀子（評議員）
江別市高齢者クラブ連合会	高橋 信行（評議員）	
学識経験者		松山 和子（評議員）
計	7人	7人
合計	14人	

◎は合同部会議長 ○は合同部会副議長

2. 評価結果についての全般的な意見

第3期地域福祉実践計画の平成30年度進捗状況の最終評価結果及びその全般的な意見は次のとおりである。

基本計画では、6計画の内、5計画で「予定を上回り推進された」と判断し「4」、1計画で「予定どおり推進された」と判断し「3」（基準点）の評価とした。

実践事業では、47事業全てが「3」以上で、この内、20事業を「4」の評価とした。（本来48事業だが、「いきいきシニアスクールの開催」については、自然災害（台風20号）の影響により急遽中止したため、評価対象外とした）

基本計画6の「職員の資質向上」では、職員を被災地災害ボランティアセンターへ派遣し被災者支援に携わったことは大変評価できるが、その経験を社協の災害時の対策へ具体的に反映させることも必要という観点に立ち、最終評価では、1回目の評価「5」から「4」へ変更した。

その他は、基本計画及び実践事業とも1回目と同じ評価とし、最終評価においても、非常に順調な進捗状況と言える結果となった。

実践事業の評価は、個々の事業ごとの実績に、内容や質の部分も加味して総合的に判断した。

全体としては、増加傾向にある相談や利用者に対して支援策を講じていることや各事業で市民の福祉向上につながるような業務の改善が見受けられたこと等を高く評価した。

成果が挙げた主な事業、そして、意見を付した主な事業について次のとおり整

理したので、今後の事業推進の参考としていただきたい。

そして、来年度からスタートする新たな第4期地域福祉実践計画の策定では、第3期計画における成果や課題等を十分に検証し、事業内容の改善と充実が図られることを期待するものである。

区 分	内 容
<p>1. 成果を挙げた主な事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="325 383 692 714">■生活困窮者自立支援事業の実施 <li data-bbox="325 714 692 916">■成年後見実施機関の運営及び事業の実施 <li data-bbox="325 916 692 1050">■地域交流の集い活動の実施 <li data-bbox="325 1050 692 1375">【北海道胆振東部地震対応】 ■高齢者・障がい者給食サービスの実施 ■北光保育園・野幌季節保育所の運営 ■総合社会福祉センターの管理運営 	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="708 383 1458 714">・積極的な広報及び周知活動を行い、くらしサポートセンターえべつの事業内容が浸透したことにより増加した相談支援業務をほぼ支障なく実施した。 <li data-bbox="708 714 1458 916">・企業及び団体とのネットワークを生かしたイベントや各種体験の実施、相談者の状況に合わせた具体的な自立支援対策の実施により、社会参加及び就労の促進が図られた。 <li data-bbox="708 916 1458 1050">社協の法人後見業務に市民後見人候補者が後見支援員として協力いただく体制を確保することにより、受任件数の増加に対応するとともに、具体的な権利擁護支援（身上保護及び財産管理）が可能になった。 <li data-bbox="708 1050 1458 1252">集いに活用できる団体や人材情報をきめ細かく、わかりやすく提供したことにより、実施自治会数が平成29年度実績を上回った。 <li data-bbox="708 1252 1458 1375">北海道胆振東部地震に際しては、各事業において利用者の安心・安全を考慮した対応を実施した。特に、市の災害対策の一環として福祉センターにおける避難所開設により市民の安心・安全に寄与した。
<p>2. 意見を付した主な事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="325 1442 692 1621">■愛のふれあい交流事業の実施 <li data-bbox="325 1621 692 1738">■基本計画4の実践事業全般 	<p data-bbox="708 1420 1458 1621">地域交流の集い活動では、上述のように実施自治会数が増加したものの、愛のふれあい活動では、実施自治会数は横ばいに留まっていることから、実施増を目指し、様々な機会を利用して働きかけをしていくことが必要。</p> <p data-bbox="708 1621 1458 1738">各種の体験学習・研修においては、施設や学校等と協議し参加者増加に向けた工夫や開催時期の検討をしていくことが必要。</p>

3. 具体的な評価の結果

(1) 平成30年度進捗状況最終評価総括表・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3

(2) 平成30年度基本計画・実践事業進捗状況最終評価表

・・・・・・・・・・ P 4～20

江別市社会福祉協議会第3期地域福祉実践計画平成30年度進捗状況最終評価総括表

基本目標	基本計画	実践事業	H30実践事業最終評価	H29実践事業最終評価	上段～H30基本計画最終評価 下段～H29基本計画最終評価	摘要（計画評価に際しての部会の意見）
暮らしの安心を支える地域福祉	1. 地域福祉に関する課題把握、情報提供や相談支援体制の整備	(1) 地域の福祉課題の把握	3	3	4 (3.50)	全体を通して、予定通り推進。生活困窮者自立支援事業の実施では、企業・団体とのネットワークを活かしたイベントや各種体験の実施、相談者の状況に合わせた具体的な自立支援対策の実施により社会参加及び就労の促進が図られた。 権利擁護の体制整備と相談支援では、社協の法人後見業務に市民後見人候補者が後見支援員として協力いただく体制を確保することにより、受任件数の増加に対応するとともに、具体的な権利擁護支援（身上保護と財産管理）が可能になった。 また、生活支援体制整備事業の実施では、特に「通いの場の情報」の作成・配布は市民主体の活動を幅広く周知することに効果を発揮。また、市民フォーラム開催や生活支援コーディネーターが地域サロンに積極的に直接出向き対話すること等により、支え合い活動の推進に努めた。
		(2) 広報活動による福祉情報の提供	4	3		
		(3) 福祉サービスの適正化、苦情対応	3	3	3 (3.25)	
		(4) 生活課題に対応した総合的な相談支援	4	4		
	2. ボランティア活動で進める福祉の環境づくり	(1) ボランティアセンターの運営	3	3	4 (3.50)	全体を通して、予定通り推進。特にボランティアセンターの運営では、傾聴ボランティアも含めて大変多いボランティア活動への相談・需給調整を円滑に行い、センター機能を着実に発揮することができた。 また、ボランティア活動のスキルアップを図るための研修開催に力を入れた。
		(2) ボランティアの育成・確保	4	4	4 (3.50)	
	3. 市民参加で進める地域での生活支援や交流活動の促進	(1) 愛のふれあい交流事業の実施	4	3	4 (3.50)	全体を通して、予定通り推進。特に企業・団体の地域貢献活動への支援では、企業・団体が円滑に取り組めるように、活動備品の貸出に対応するとともに、活動先紹介や利用者との連絡調整等を積極的に行った。 愛のふれあい交流事業の実施では、地域交流の集い活動で実施自治会数が29年度実績を上回った。今後も実施増を目指して様々な機会を利用して働きかけをするとともに、活動に取り組みやすくなるような情報提供が必要である。
		(2) 江別市共同募金委員会との協働	3	3		
		(3) 江別ふれあい福祉の広場の開催	3	3	3 (3.25)	
		(4) 企業・団体の地域貢献活動への支援	4	4		
	4. 体験学習、研修による福祉意識の醸成	(1) 地域福祉活動者研修会の開催	3	3	3 (3.00)	全体を通して、ほぼ予定通り推進。今後も各種の体験学習・研修においては、施設や学校等と協議し参加者増加に向けた工夫や開催時期を検討していくことが必要である。
		(2) 福祉施設での体験学習	3	4		
		(3) 総合的な学習の時間や学校・大学の福祉活動への協力	3	3	3 (3.25)	
		(4) いきいきシニアスクールの開催	評価対象外	3		
	5. 自立した生活を支援する福祉サービスの提供	(1) 雪処理への支援	3	4	4 (3.60)	全体を通して、予定通り推進。今後も利用者に支障が無いようにサービスの提供体制確保に努めていくことが必要である。 また、胆振東部地震に際しては、各事業において利用者の安心・安全を考慮した対応を実施した。
		(2) 高齢者・障がい者給食サービスの実施	4	3		
		(3) 障がい児者移動支援事業の実施	3	3	4 (3.60)	
		(4) 福祉機器の貸与	4	4		
		(5) 北光保育園・野幌季節保育所の運営	4	4		
	6. 地域に信頼される社協運営のための組織づくり	(1) 組織体制の整備	4	4	4 (3.67)	全体を通して、予定通り推進。特に、行政との連携では、受託事業（生活困窮者自立支援事業及び成年後見支援センター運営等）で具体的な進め方や内容等について円滑に実施できるように協議を行った。 総合社会福祉センターの管理運営では、照明器具更新(LED化)により、利用環境の整備と経費の効率化を実現した。 また、胆振東部地震に際しては、市の災害対策の一環として福祉センターでの避難所開設により市民の安心・安全に寄与した。
		(2) 財源基盤の整備	3	3		
		(3) 事務事業の改善	4	4		
		(4) 総合社会福祉センターの管理運営	4	3	3 (3.33)	
		(5) 防災・災害対策の推進	4	3		
(6) 地域福祉実践計画の進行管理		3	3			

※ 達成状況 5 : 非常に評価できる(予定を大幅に上回り推進された)

4 : かなり評価できる(予定を上回り推進された)

3 : 普通に評価できる(予定どおり推進された)

2 : 少し評価できる(順調に推進されなかった)

1 : ほとんど評価できない(全く推進されなかった)

平成30年度 基本計画・実践事業進捗状況最終評価表

【基本計画 1 地域福祉に関する課題把握、情報提供や相談支援体制の整備】

実践事業名	事業内容	事業区分	方向性	27年度 最終評価	28年度 最終評価	29年度 最終評価	30年度 の方針	30年度実践事業実績 ※実績は平成31年3月末現在	部会最終評価 (達成状況)	部会評価理由
1 地域の福祉課題の把握	当協議会の運営、事業上の課題や地域の福祉課題を把握するためアンケート調査を行い、地域の福祉課題を把握し、内容を分析し対応に向けた取り組みを検討・実施	自主事業	重点	3	3	3	実施・対応	第4期地域福祉実践計画策定の基礎資料として、自治会・施設・福祉団体・ボランティア団体 295カ所を対象にアンケート調査を31年3月に実施。	5 4 ③ 2 1	・予定通りアンケートを実施。 ・次年度実践計画策定に向け結果とりまとめ。
2 広報活動による福祉情報の提供			重点	3	3	3			5 ④ 3 2 1	
(1) 社協だより「幸せな社会」の発行	当協議会の事業・サービスに対する市民の声や身近な地域活動等、わかりやすい誌面内容により年4回自治会の協力や公共施設等に設置し広報	自主事業	継続	4	3	3	実施	自治会の協力を得て年4回全戸配布する他、公共施設への配置や企業への送付を通して市内全域に広報活動を展開（H31.4月号発行～約42,000部、「社協は「地域に貢献したい」の架け橋になります！」他）。広報編集委員会3回開催（H30.7月号、10月号、H31.1月号、H31.4月の編集）。 ・引き続き写真・カラー印刷等により市民にわかりやすい編集に努める。 【H30.7月号からH31.4月号までの主な地域福祉活動の掲載内容】 地域共生ホームてまりの華「ちいき食堂」、高齢者クラブ連合会「ご縁募金」、長井学園及び江別認知症の人の家族を支える会周年記念特集記事、各地区慈善バザー、チャリティーのっぽる元氣祭、江別市少年軟式野球連盟共同募金街頭募金、ホームページリニューアル等	5 ④ 3 2 1	・社協で実施している様々な事業の周知をするとともに市民にわかりやすい編集に努める。 ・社協事業だけでなく地域の様々な福祉活動掲載にも力を入れ市民にPR。
(2) ホームページの運営	当協議会やボランティア団体の活動・福祉サービスの内容等をリアルタイムな情報を掲載。また、適宜、情報更新	自主事業	継続	3	3	3	実施	画面構成をリニューアルし、当協議会やボランティア団体の活動及び福祉サービスの内容等様々な福祉情報を掲載し、適宜更新。10,928件のアクセス。(29年度8,729件) 【主な掲載内容】 平成29年度事業報告・決算、平成29年度ボランティア活動報告書、くらしサポートセンターえべつ、江別市成年後見支援センター、社協だより「幸せな社会」、他社協の各種事業の内容、職員採用情報、江別市共同募金委員会情報等	5 ④ 3 2 1	・内容を随時更新し、タイムリーに情報提供。 ・見やすく、わかりやすくなるように画面構成をリニューアルし、アクセス件数も増加。
(3) 社協事業活動の説明	年度毎、計画的に各関係団体の会議等で社協紹介パンフレット等を活用し、社協事業について説明・周知	自主事業	☆新規	3	3	3	実施	ボランティアセンター登録団体等の関係団体会議の場に出向き説明。 【説明先】札幌学院大学公認心理師受験資格取得「心理実践実習」、江別認知症の人の家族を支える会第7期活動員養成講座 ・2018年版社協要覧を第2種、第3種会員、市へ配布し社協についてPR。	5 4 ③ 2 1	・説明依頼に対応。 ・今後も団体の会議、行事等を利用して説明の機会を積極的に確保することが必要。
3 福祉サービスの適正化・苦情対応	当協議会が実施する福祉サービス・活動に対する市民の苦情・批判・意見へ円滑に対応	自主事業	継続	3	3	3	実施	社協事業の福祉サービスなどに苦情や要望等があった場合、随時、円滑な対応を実施。 【具体例】 ・給食サービスの遅配・味付け等に関する対応 ・除排雪に関する苦情に対する対応	5 4 ③ 2 1	電話対応だけでなく、現地に出向いての対応も実施。スピーディーな対応に努めた。

4 生活課題に対応した 総合的な相談支援			重点	4	4	4		5 ④ 3 2 1	
(1) 生活困窮者自立 支援事業の実施	生活上の悩みごと を抱え支援が必要な 方の課題を関係機関 との協働により解決 し、自立した生活が 送れるように包括 的・総合的に相談支 援	市受託事業	☆新規	4	4	4	<p>くらしサポートセンターえべつ開設4年目を迎え、より一層相談者の自立支援対策の充実と支援のネットワークづくりを推進。</p> <p>【相談支援実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規相談件数：352件（29年度361件） ・支援延べ回数：3,197回（29年度2,453件） ・プラン作成件数：73件（29年度70件） ・継続支援件数（プラン作成者除く）：47件 ・支援調整会議：44回 <p>【事業周知実績等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブログ「くらしサポWEB」の更新（13回） ・社協広報誌へのPR記事掲載（30年7月号・10月号） ・市広報無料相談窓口欄にPR記事掲載（30年5月号・11月号） ・市広報PR記事掲載（30年12月号） ・チラシ配布～3団体 ・事業説明、情報提供のための訪問等～13団体 <p>【就労支援の充実に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労支援関係事業所（ハローワーク等）との連携 ・就労準備支援事業（しごとサポートセンターコクリ）との連携 ・企業等訪問（12カ所） ・くらしサポートセンターえべつ無料職業紹介所の運営 ・江別農福連携協議会との連携 ・江別版中間的就労への取り組みについての検討 <p>◆就労斡旋及び就労体験実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般事業所での就労14人（14事業所） ・障がいサービス事業所での就労8人（4事業所） ・就労体験実人数13人・15回（内訳：企業1回、老人ホーム1回、農場9回、事業所4回） <p>【ネットワークづくりの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道央圏事業担当者における情報交換会への出席（30年8月） ・江別市生活困窮者自立支援ネットワーク会議の開催（30年12月） <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えべつ企業の広場デモ開催（30年5月） ・職業紹介責任者講習の受講（30年5月）※当該責任者の増員 ・相談者の絵画の展示会（30年6月） ・札幌学院大学大学院公認心理士カリキュラム心理実践実習への協力（30年6月） ・福岡市就労自立支援センター視察受け入れ（30年6月） ・北海道医療大学大学院研究協力（30年6月） ・北翔大学教育文化学部心理カウンセリング学科への協力（30年7月） ・ひきこもり等相談支援機関合同説明会、家族談会の開催（30年7月、31年3月） 	5 ④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・就労に至る前段階にある方への通院同行、外出機会や就職につながる各種体験の実施、企業等とのネットワークづくりに努める等より一層相談者の自立支援対策の充実に向け。 ・多くの機関への事業説明及びブログでの情報発信も含めた周知活動の実施。

(2) 権利擁護の体制整備と相談支援				4	4	4		5 ④ 3 2 1	
ア. 日常生活自立支援事業の実施	高齢や障がいにより福祉サービスの利用や生活費管理等に不安を抱えている在宅で生活している方を対象にその支援や書類を管理	道社協受託事業	継続	4	4	4	<p>相談を受けた自立生活支援専門員が具体的な困りごとについて話を聞き、提供するサービスの計画（生活支援計画）を作成。契約後は、計画に基づき生活支援員が利用者のもとに出向きサービスを提供。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約件数 22件(新規契約4件、解約4件) ・生活支援員数 24人(内、活動中の支援員13人) ・支援内容 いずれも福祉サービス利用援助、金銭管理、18人の方については利用者の通帳預かりを実施中。利用者の様々な要望や困りごとに対して、自立生活支援専門員を中心に時間をかけて粘り強く対応。 	5 ④ 3 2 1	利用者のニーズや新規相談へ適確に対応。
イ. 成年後見実施機関の運営及び事業の実施 【成年後見制度の利用促進への協力】	<p>認知症、精神障がい及び知的障がい等により判断能力が十分でない人が成年後見制度を適切に利用できるような支援を行い、これらの人の権利を尊重し擁護することにより地域で安心して暮らせるよう、制度の利用促進と地域生活を支援するため後見実施機関の運営と法人後見業務を実施</p> <p>【権利擁護体制の整備を図るため、成年後見制度の利用促進（市民後見人の育成・確保・活用等）について協力】</p>	市受託事業【協力事業】	☆新規	4	4	4	<p>江別市成年後見支援センターの運営及び法人後見事業への取り組みにより、成年後見制度の利用促進と相談支援を実施。また、広報カードの作成や地域向け講演会開催等による制度の普及に努めるとともに、市民後見人候補者の資質向上を図るためフォローアップ研修を実施。</p> <p>【相談支援実績・ケース検討等】</p> <p>① 相談件数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規相談件数 98件 ・延相談件数 638件 <p>② 申立支援 20件</p> <p>③ ケース会議 8回 ④受任調整会議 6回</p> <p>【法人後見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の受任件数9件（30年度受任9件、終了1件） ・現在支援活動を行っている法人後見支援員13人 <p>【市民後見人フォローアップ研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30年6月20日（水）30年度第1回～「市内施設見学（特養・老健・ケアハウス）による施設概要、役割及び成年後見制度との関わり等」の学習 ・31年2月22日（金）30年度第2回～具体的な法人後見活動を題材とした事例検討・グループワーク <p>【普及啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協だよりにPR記事等掲載、ホームページ掲載 ・広報カードの作成と設置（市役所・病院等18カ所） ・30年11月4日（日）地域向け講演会「おひとりさまの認知症と成年後見制度」を開催 ・出前講座等～江別北地区民児協定例会、江別市自立支援協議会、江別市特別支援学級親の会、看護監理者懇談会、江別身体障害者福祉協会、家庭生活相談員研修会、地域生活サポートセンターららぽ <p>【関係機関会議への参加・事業説明等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市担当者との後見実施機関運営会議（通年／9回） ・札幌学院大学大学院公認心理師実習 ・平成30年度第1回江別市成年後見実施機関運営協議会 ・北海道主催・権利擁護人材養成市町村セミナー等実践報告 ・江別市及び江別市成年後見支援センターと家庭裁判所との懇談会 ・地域包括支援センターとの情報交換会 ・行政書士会との情報交換会 ・地域で成年後見制度を支える研修会 <p>【登録管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民後見人候補者の登録管理 25人登録 ・法人後見支援員の登録管理 25人登録 	5 ④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・法人後見業務では市民後見人候補者が法人後見支援員として協力いただく体制を確保することにより、受任件数の増加に対応するとともに、成年被後見人等が安心した地域生活を送れるように具体的な権利擁護支援（身上保護及び財産管理）が可能となった。 ・センター運営、法人後見業務実施により、日常生活自立支援事業と合わせて社協としての包括的な権利擁護支援体制が確立。
<p>実践事業名・事業内容・事業区分・29年度の方針の各欄記載の内容は、29年度からの事業受託に基づき変更している。各欄【 】の記載は28年度までの記載内容</p>									

(3) 生活安定のための貸付金を活用した相談支援				4	3	3			5 4 ③ 2 1	
ア. 生活福祉資金の貸付	北海道社会福祉協議会の資金貸付事業の相談窓口となり、民生委員・児童委員の協力を得て、4種類の資金の貸付を実施	道社協受託事業	継続	4	3	3	実施	<p>【新規貸付件数】 生活福祉資金 18 件（教育支援資金 7 件、福祉資金 1 件、緊急小口資金 9 件、総合支援資金 1 件）（29 年度 17 件） 但し、195 件の相談があり、貸付対象条件に該当しない場合は、他の制度を紹介。</p> <p>【生活資金相談員の配置】 依然として多い貸付相談と業務量に対応するため 30 年度も生活資金相談員 1 人を配置。道社協に対し、31 年度も生活資金相談員配置経費の補助を要請し決定。</p> <p>【民生委員・児童委員への制度説明】 当制度と関わりの深い各地区民生委員児童委員協議会の定例会で制度説明、5 月に江別南・江別西・野幌南・大麻東の各民児協で説明済。</p> <p>◆くらしサポートセンターえべつとも連携し相談者の自立に向けた貸付相談を実施。</p>	5 4 ③ 2 1	・依然、相談が多く、他制度紹介も含め、相談窓口の機能を発揮。 ・くらしサポとも連携する中で、自立支援の一環として事業を実施。 ・最も制度に関わりの深い民生委員に制度内容再確認の機会を提供。
イ. 特別生活資金の貸付	北海道社会福祉協議会の資金貸付事業の相談窓口となり、冬期間の生活資金の貸付を実施	道社協受託事業	継続	3	3	3	実施	<p>冬期の生活（灯油代）を確保するための資金の貸付を 30 年 10 月から実施。</p> <p>【新規貸付件数】 0 件（29 年度 0 件）</p>	5 4 ③ 2 1	予定通り実施。
ウ. 福祉金庫の貸付	一時的に生活資金が必要となった世帯に貸付を実施	自主事業	継続	4	3	4	実施	<p>4 万円を限度として、生活費を貸付。300 件を超える貸付相談と業務量に対応するため、アの生活資金相談員が対応。</p> <p>【貸付件数】 95 件（29 年度 85 件） 【貸付金額】 3,510,000 円 【償還金額】 3,702,793 円</p> <p>・福祉金庫管理委員会（1 回）に諮り、長期滞納世帯償還金を免除、資産内容の健全化を図った。 ・くらしサポートセンターえべつとも連携し相談者の自立に向けた貸付相談を実施。</p>	5 4 ③ 2 1	・貸付原資を確保し、円滑に貸付を実施。 ・くらしサポと連携し自立支援の一環として機能を発揮。
(4) ボランティアによる日常生活上の悩みごとに関する相談支援	当協議会に登録している相談活動を主とするボランティア団体の協力を得て、様々な心配ごと・不安への対応や制度への橋渡しの相談活動を実施	自主事業	継続	4	3	3	実施	<p>江別家庭生活カウンセラーグループ、江別市家庭問題研究会、江別認知症の人の家族を支える会の協力により実施。</p> <p>【悩みごとテレホン相談】 火曜日：相談件数 44 件 金曜日：相談件数 28 件</p> <p>【認知症の介護相談】 木曜日：相談件数 7 件 合計 79 件（30 年度 65 件）</p> <p>・「幸せな社会」「広報えべつ」への掲載により PR、平均的に相談有り。特に、「幸せな社会」で毎号 PR。</p>	5 4 ③ 2 1	予定通り実施。

<p>(5) 生活支援体制整備事業の実施</p>	<p>生活支援コーディネーターを配置するとともに関係機関と協働し、多様な生活支援サービスが提供される地域づくりを進めるため、市民の様々な福祉活動の実態を把握し、市民主体の福祉サービスや助けあい活動実施について相談と支援を実施</p>	<p>市受託事業</p>	<p>☆新規</p>	<p></p>	<p></p>	<p>4</p>	<p>実施</p>	<p>生活支援や介護予防の充実を図ることを目的に、地域住民が「支え合いのまちづくり」を進めていく上での助言や、通いの場情報誌の作成、第2層生活支援コーディネーター（地域包括支援センター）への支援、地域活動への参加等、関係機関・団体とのネットワークを構築し、安心して暮らせる地域づくりの推進に向け取り組んでいる。</p> <p>【会議への参加】延べ26回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江別市生活支援体制整備協議体、市民フォーラム開催等 <p>【研修会への参加】延べ5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の展開に必要な知識の習得 <p>【関係機関との情報交換・情報収集活動】延べ55回</p> <p>【地域活動への参加】延べ97回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロン、地域食堂、こども食堂への見学・参加 <p>【通いの場情報誌の作成関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内約190カ所の通いの場の情報を30年5月発刊。30年12月から訪問だよりの発行。公共施設及び各団体窓口に設置及びホームページ掲載。 ・通いの場情報への掲載許諾依頼のための連絡・訪問 延べ48回 <p>【第2層生活支援コーディネーターへの支援】延べ9回</p> <p>【ちよこっと茶屋の開催関連】関係機関打合せ会議1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協と地域包括支援センターが主体となり <p>コープさっぽろえべつ店の協力を得て、住民同士の交流の場として「ちよこっと茶屋」を5回開催。（年度末まで更に2回開催予定）</p> <p>【その他】延べ94回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動 ・サロン等立ち上げ希望者への支援 ・市民活動団体の情報収集、接触、情報提供 ・その他情報収集 	<p>5 ④ 3 2 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各サロンへの参加を通じ、事業推進上必要なつながりを多く持つことができた。 ・「通いの場」情報誌の作成・配布は、地域に点在する市民主体の活動を幅広く周知する対策として効果有り。 ・市民フォーラム開催や生活支援コーディネーターが積極的に地域サロンに直接出向き対話すること等により、支え合い活動の推進に努めた。 ・社協自体でも「ちよこっと茶屋」（交流の場）を主体的に運営。
<p>全体評価</p>				<p>3</p>	<p>3</p>	<p>3</p>			<p>5 ④ 3 2 1</p>	

【基本計画2 ボランティア活動で進める福祉の環境づくり】

実践事業名	事業内容	事業区分	方向性	27年度 最終評価	28年度 最終評価	29年度 最終評価	30年度 の方針	30年度実践事業実績 ※実績は平成31年3月末現在	部会最終評価 (達成状況)	部会評価理由
1 ボランティアセンターの運営		自主事業	重点	4	4	3			5 4 ③ 2 1	
(1) ボランティア活動の相談・登録・活動先紹介	市民に広く活動の相談・登録窓口であることを周知し、幅広い人材を募り、活動先を紹介・確保	自主事業	継続	4	4	4	実施	ボランティア活動の相談受付・登録、ボランティア活動への協力依頼に対するボランティアへの情報提供及び活動希望者の調整・確保を実施。 【社会福祉施設等へのボランティア協力】 活動実績 延べ 6,348 人 (29年度 5,356 人) 【登録者】 団体会員・個人登録 1,621 人 (フレンティア、傾聴登録者含む) 【傾聴ボランティア】 活動実績 延べ 2,615 人 (内訳: 施設 2,211 人 個人 404 人、29年度 2,770 人)、登録者 169 人 【フレンティア】 活動実績 延べ 200 人 (29年度 198 人): 福祉ダンス等に派遣、登録者 57 人 合計 9,163 人 (29年度 8,324 人) 【ボランティア登録】 30年度新規登録 1 団体で、合計 55 団体登録	5 ④ 3 2 1	増加傾向の一途を辿り、非常に多いボランティア活動の需給調整を滞りなく行い、ボランティアセンター本来の機能を発揮。
(2) ボランティア活動の基盤整備	ボランティア活動保険の加入促進・登録ボランティア団体への活動費の助成等安心して活動に取り組める基盤を整備	自主事業 市補助事業	継続	4	4	3	実施	・交通費の助成 前記(1)の活動協力に対し交通費を助成。 ・各種民間助成金の案内と取りまとめ みずほ教育福祉財団老後を豊かにするボランティア活動資金助成、北海道地域活動振興協会ボランティア活動支援事業、道新ボランティア奨励賞、大和証券福祉財団ボランティア活動助成事業 【保険加入者数】 1,622 人 ・ボランティアセンター登録団体の活動を支援するため助成金を交付。 【交付実績】 55 団体 1,174,750 円	5 4 ③ 2 1	保険加入及び活動費助成を予定通り実施。
(3) 江別市ボランティア団体連絡会の運営	登録ボランティア団体で構成されるボランティア団体連絡会を円滑に運営し、団体間の情報交換・交流を促進	自主事業 (協働事業)	継続	3	3	3	実施	ボランティアセンター登録団体により構成される連絡会と社協が協働してボランティア活動を推進。 【総会及び役員会】 年 1 回 開催日: 30年6月6日(水) 【加入団体数】 55 団体 【主な活動実績】 ・総会終了後、ボランティアスキルアップ研修として社協職員による「くらしサポートセンターえべつの取り組みについて」説明。 ・29年度ボランティア活動報告書の作成・配布とホームページへの掲載。 ・江別ふれあい福祉の広場及びボランティア団体・福祉団体写真展への協力。 ・30年7月11日(木) ボラ連会長及び副会長4人が新篠津村で開催された石狩地区ボラネットスキルアップ研修会に参加。 ・30年10月21日(日) ボラ連会長及び副会長2人が小樽市で開催された「ボランティア愛ランド in おたる」に参加。	5 4 ③ 2 1	社協事業への協力も計画通り実施し支障なく運営。

2 ボランティアの育成・確保				4	4	4			5 ④ 3 2 1	
(1) ボランティア活動者研修の開催	ボランティア実践者や市民を対象に、活動に取り組む契機とし、知識・技術の向上を図る機会として開催	自主事業 (協働事業)	継続	3	3	3	実施	<p>ボランティア活動者を対象に、スキルアップを図ることを目的に開催。</p> <p>【個人ボランティア対象研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 31年2月26日(火) ・受講者数 22人 ・内容 社協職員による生活支援体制整備事業における取り組みについて学習。 <p>【団体会員対象研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 31年3月22日(金) ・受講者数 21人 ・内容 江別市危機対策室による災害が起きた時の対応についての学習。 	5 ④ 3 2 1	団体会員向けだけでなく、個人ボランティア向けの研修を初開催。
(2) 傾聴ボランティアの育成	「コミュニケーションバンク」実行委員会を実施主体として養成研修を開催し、研修修了者は、傾聴ボランティアとして具体的な活動に派遣	自主事業 (協働事業)	継続	4	4	4	実施	<p>社協と江別市ボランティア団体連絡会が協働して、悩みや寂しさを抱える高齢者の話し相手をボランティアで行い、「聴く」ことにより心の不安を軽減することを目的に実施。</p> <p>【養成研修】</p> <p>「第14期養成研修」を11月に開催、受講修了者12人。</p> <p>【スキルアップ研修】</p> <p>北海道総合福祉研究センター主催の「全道傾聴フォーラム」をスキルアップ研修と位置付けし、傾聴ボランティアを参加派遣。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 30年11月11日(日) ・参加者数 24人 ・内容 傾聴活動の知識・技法等について、参加者毎希望の分科会に出席し学習。 <p>【利用者数】33施設、14個人(29年度35施設、16個人)</p> <p>※協力実績は1の(1)参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの確保により、傾聴活動の要請に対応した体制整備がされている。 <p>【傾聴ボランティア実行委員会】</p> <p>(1回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 30年11月9日(金) ・参加者数 養成研修修了者12人 ・内容 傾聴ボランティア事業の概要説明と質疑応答。 <p>(2回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 31年3月13日(水) ・参加者数 18人 ・内容 グループワークと意見交換による傾聴活動の基本の再確認。 	5 ④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな修了者の8割以上が活動中であり、傾聴を希望するニーズに対して円滑に対応。 ・活動中の傾聴ボランティアに対してもフォローアップのための研修を実施。 ・くらしサポートセンターえべつと連携し相談者に対する傾聴活動も実施。
全体評価				4	4	4			5 ④ 3 2 1	

【基本計画3 市民参加で進める地域での生活支援や交流活動の促進】

実践事業名	事業内容	事業区分	方向性	27年度 最終評価	28年度 最終評価	29年度 最終評価	30年度 の方針	30年度実践事業実績 ※実績は平成31年3月末現在	部会最終評価 (達成状況)	部会評価理由															
1 愛のふれあい交流事業の実施			重点	4	4	3			5 ④ 3 2 1																
(1) 愛のふれあい活動の実施	ボランティアグループを編成して、ひとり暮らし高齢者等への安否確認、声かけや必要に応じた助けあい活動を行う自治会を支援	市補助事業 (協働事業)	継続	4	4	3	実施	<p>【実施状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>自治会数</td> <td>対象世帯数</td> <td>ボランティア延人数</td> </tr> <tr> <td>江別地区 21自治会</td> <td>526世帯</td> <td>885人</td> </tr> <tr> <td>野幌地区 33自治会</td> <td>656世帯</td> <td>1,336人</td> </tr> <tr> <td>大麻地区 31自治会</td> <td>699世帯</td> <td>1,547人</td> </tr> <tr> <td>合計 85自治会</td> <td>1,881世帯</td> <td>3,768人</td> </tr> </table> <p>【実施割合】 85自治会÷161自治会=52.8% (29年度 85自治会)</p> <p>・基本計画1の「社協事業活動の説明」でも重点的に説明し事業内容への理解を図っている。</p>	自治会数	対象世帯数	ボランティア延人数	江別地区 21自治会	526世帯	885人	野幌地区 33自治会	656世帯	1,336人	大麻地区 31自治会	699世帯	1,547人	合計 85自治会	1,881世帯	3,768人	5 4 ③ 2 1	・実施自治会数増を目指して、様々な機会を利用して働きかけして行くことが必要。
自治会数	対象世帯数	ボランティア延人数																							
江別地区 21自治会	526世帯	885人																							
野幌地区 33自治会	656世帯	1,336人																							
大麻地区 31自治会	699世帯	1,547人																							
合計 85自治会	1,881世帯	3,768人																							
(2) 地域交流の集い活動の実施	地域の高齢者・障がい者等のために助けあい活動の一環として、引きこもりを予防し、心身のリフレッシュを目的に交流活動を行う自治会を支援	市補助事業 (協働事業)	継続	4	4	3	実施	<p>【実施状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>自治会数</td> <td>事業数</td> </tr> <tr> <td>江別地区： 28自治会</td> <td>109事業</td> </tr> <tr> <td>野幌地区： 31自治会</td> <td>110事業</td> </tr> <tr> <td>大麻地区： 39自治会</td> <td>128事業</td> </tr> <tr> <td>合計 98自治会</td> <td>347事業</td> </tr> </table> <p>【実施割合】98自治会÷161自治会=60.9% (29年度 94自治会 341事業)</p> <p>・ボランティア行事用保険掛金助成・加入手続を実施するとともに、「地域交流の集い活動事例集」の活用(ホームページにも掲載中)や社協だより「幸せな社会」でも自治会の取り組みを毎回掲載。基本計画1の「社協事業活動の説明」でも重点的に説明し、事業内容への理解を図っている。</p> <p>・29年度からは、自治会が集い活動をより実施しやすくなるため提供している活用できる団体や人材情報の充実を図っている。</p> <p>・29年度から助成金の透明性の確保のため自治会収支決算書への助成金収支の記載を依頼。</p>	自治会数	事業数	江別地区： 28自治会	109事業	野幌地区： 31自治会	110事業	大麻地区： 39自治会	128事業	合計 98自治会	347事業	5 ④ 3 2 1	・実施自治会数が増加。 ・様々な機会を利用して活動実施に向けて働きかけて行くことが必要。 ・今後も集い活動が実施しやすくなるような情報提供が必要。					
自治会数	事業数																								
江別地区： 28自治会	109事業																								
野幌地区： 31自治会	110事業																								
大麻地区： 39自治会	128事業																								
合計 98自治会	347事業																								
2 江別市共同募金委員会との協働	江別市共同募金委員会事務局として広報活動や募金活動を担い、市民の福祉意識を醸成、また、歳末たすけあい募金を活用し、生活にお困りの世帯へ見舞金を贈呈	自主事業 (協働事業)	継続	3	3	3	実施	<p>【共同募金委員会事務局】 共同募金委員会事務局として、募金目標額の設定、予算・決算の策定、募金活動等業務全般への協力。 日本ハムファイターズグッズ、寄付金付ピンバッジ等を活用した募金活動を積極的に展開したものの共募・歳末とも29年度実績を下回る。</p> <p>【歳末見舞金贈呈】 社協だより30年10月号で事業を周知、民生委員・児童委員の調査により、生活困窮世帯及び被災世帯を把握する。該当世帯・金額等を審査委員会で決定し、30年12月25日(火)に贈呈。</p> <p>【贈呈結果】 1人世帯 298世帯、2人世帯 135世帯、3人以上世帯 108世帯 合計541世帯 (29年度570世帯)</p> <p>◆贈呈額は、1人世帯5,000円、2~3人以上世帯6,000円</p>	5 4 ③ 2 1	予定通り実施。															

3 江別ふれあい福祉の広場の開催	実行委員が中心となり、市民と福祉団体が交流し、ノーマライゼーションの考え方を普及することを目的に開催	自主事業 (協働事業)	継続	4	4	3	実施	<p>市内障がい者団体、福祉団体及びボランティア団体等の参画のもと、多くの市民がふれあい、地域の福祉を理解することを目的として開催。</p> <p>開催内容は、ふれあいバザー、社協及び共募会長顕彰、赤い羽根助成金交付式、屋外セレモニー等。</p> <p>【実施状況】</p> <p>30年7月22日(日)江別ふれあい福祉の広場 来場者数約5,000人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広場参画19団体から義援金253,504円寄付あり。 ・福祉団体写真展へ44団体出展。 ・市の「地域イベントへの職員派遣モデル事業」の内容について協議し、広場へ職員4人受け入れ。 ・日本ハムファイターズのグッズを活用した共同募金コーナーも設置し啓発活動を展開。 <p>*30年7月21日(土)実施予定であったスポーツレクリエーションは参加者数が見込めず中止。</p>	5 4 ③ 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉団体・施設の他、市職員とも協働し、予定どおり開催。 ・スポーツレクリエーションについては、施設及び協力団体等と協議し、今後の在り方について検討が必要。
4 企業・団体の地域貢献活動への支援	企業・団体が行う社会貢献活動や地域行事等への協力要請に対し、活動先の紹介や連絡調整また活動備品の貸出等により支援	自主事業 (協力事業)	継続	3	4	4	実施	<p>【活動備品の貸出】</p> <p>自治会・団体・施設等の行事に対し、テント及び机等活動備品を貸出。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テント 10自治会 7施設 25団体 ・机 2自治会 14施設 15団体 ・椅子 2自治会 10施設 14団体 ・炊き出し釜 実績無し <p>合計延14自治会、31施設、54団体 (29年度延14自治会、37施設、51団体)</p> <p>【活動先の紹介・協力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30年12月8(土)、札幌整備振興会江別支部、江別ロータリークラブ、全日本ロータス同友会札幌支部のメンバーが車椅子無料点検による社会貢献活動に協力。社協の車椅子約70台を点検(30年度で10年目)。 ・北海道コココーラ(株)が歳末期の社会貢献活動として実施している清涼料水贈呈運動へ協力し、市内知的障がい者施設等へ配布(30年度で51回目)。 ・朝日生命労働組合が社会貢献活動の一環として実施している未使用タオル贈呈運動に協力し、市内特別養護老人ホーム5カ所へ配布。 ・消費者協会が主催し30年12月15日(土)、市民会館で開催した「2018消費者のひろば」に協力し啓発活動を実施。 ・江別建設業協会の高齢者宅の除雪作業による社会貢献活動について、対象世帯の選定及び連絡調整等で協力。31年1月25日(金)20世帯を作業。 ・江別管工事業協同組合の高齢者宅の水廻り無料点検による社会貢献活動について、対象世帯の取りまとめ及び連絡調整等で協力。30年10月9日(火)～11日(木)の期間、大麻地区の57世帯点検。 ・末日聖徒イエス・キリスト教会の社会貢献活動に協力。30年12月5日(水)、車椅子7台受領。 	5 ④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・市からのテントの貸与等を受けて備品貸出を円滑に実施し、地域活動等への支援につなげた。 ・企業、事業所等の社会貢献活動が円滑にできるように、連絡調整等を積極的に実施。 ・日頃のPR活動により、企業・団体から地域貢献活動や車椅子等の寄贈が増加。 ・これら活動備品については、返却の際の点検、メンテナンス等により、貸出に支障が無い状態にしておくことが必要。
全体評価				4	4	3		5 ④ 3 2 1		

【基本計画4 体験学習、研修による福祉意識の醸成】

実践事業名	事業内容	事業区分	方向性	27年度 最終評価	28年度 最終評価	29年度 最終評価	30年度 の方針	30年度実践事業実績 ※実績は平成31年3月末現在	部会最終評価 (達成状況)	部会評価理由
1 地域福祉活動者研修会の開催	自治会関係者や市民を対象に、高齢者等への支援事業・制度についての講演や情報提供及び意見交換を通して、地域福祉を考え、支援の輪を広げていくことを目的に開催	自主事業	継続	3	3	3	実施	「地域交流の集い活動」等の内容の充実に役立てていただくことを目的に開催。 ・開催日 31年3月13日(水) ・参加者数 47人 ・内容 地域活動に活かせるレクリエーション技術についての体験学習。	5 4 ③ 2 1	・予定通り開催。 ・29年度に開催して好評を得た内容を踏襲して開催。
2 福祉施設での体験学習				3	3	4			5 4 ③ 2 1	
(1) ワークキャンプの開催	老人福祉・保健施設等の協力を得て高校生を対象に、利用者との交流や介助体験を通して、生きる尊さや支えあう心の大切さを学ぶ機会として開催	自主事業	継続	3	3	4	実施	市内の小中学生を対象に福祉施設で開催。 内容は、食事介助、アイマスクを着用しての歩行体験、施設利用者との交流等。社協だより30年10月号に開催結果掲載。 【開催状況】 静苑ホーム:30年7月30日(月)3人・冬は31年1月8日(火)・9日(水)で9人。計12人(29年度17人) 友愛ナーシングホーム:(夏のみ開催)参加者無し。 恵明園:夏参加者無し。冬は31年1月9日(水)3人。 計3人(29年度7人) ・施設担当者とともに学校へ直接訪問のうえ事業説明及び参加依頼。 ・参加しやすいように日帰りプランを中心に開催。 ・施設利用者への介助・交流を主にした体験内容。事業への共通理解を深めるため、学校にも参加者体験文等を送付。	5 4 ③ 2 1	・予定通り夏・冬開催。 ・参加しやすさに重点を置き、日帰りプランを中心として開催。 ・今後も施設や学校と協議し、参加者数の増加に向けた開催時期の検討及び学校への開催案内通知から開催日までの参加申込期間に余裕を持たせる等の工夫が必要。
(2) ハーフデイボランティアスクールの開催	知的障がい者施設等の協力を得て小中高生を対象に、活動体験を通して、地域の福祉に関心を持ち、ボランティア活動に取り組むきっかけとなることを目的に開催	自主事業	継続	3	3	4	実施	福祉施設等での半日程度の体験学習。 【開催日】 30年10月27日(土)開催。 【参加者数】5人(29年度13人)。 【協力施設】 恵明園、静苑ホーム、友愛ナーシングホーム 計2施設	5 4 ③ 2 1	・6月30日開催予定であったが、参加者無く延期。 ・今後も施設や学校と協議し、参加者数の増加に向けた開催時期の検討及び学校への開催案内通知から開催日までの参加申込期間に余裕を持たせる等の工夫が必要。
3 総合的な学習の時間や学校・大学の福祉活動への協力	学校から総合的な学習の時間へ協力要請があった場合、体験用具の貸し出しや協力先の紹介、また、学校や大学の自主的な福祉活動や地域との協働事業実施の際の協力要請に対応	自主事業 (協力事業)	継続	3	3	3	実施	総合的な学習に伴う体験用具の貸出等の協力。 【貸出状況】 ・車椅子:3校、アイマスク2校、体験セット4校 【総合的な学習への職員派遣】2校(2回) 【総合的な学習へのボランティア派遣】4校(4回)	5 4 ③ 2 1	備品貸出はもとより様々な要請に対し全て対応。

4	いきいきシニアスクールの開催	江別市シルバーウィーク期間中に、身近な生活・健康上の話題をテーマとして高齢期の生きがいづくりや地域との関わりについて考える機会として開催	自主事業	継続	3	3	3	実施	高齢者クラブ関係者を対象とした研修会。 【開催予定日】30年9月5日(水) 【内容】「防災・減災」の話 【参加者数】77人(29年度58人) ★上記のとおり開催予定だったが、当日、台風20号による倒木の被害が発生し、講師である市災害対策室職員の都合が着かなくなったため急遽中止となった。	5 4 3 2 1	自然災害の影響により急遽中止したことより、評価対象外の事業とした。
全体評価					3	3	3			5 4 ③ 2 1	

【基本計画5 自立した生活を支援する福祉サービスの提供】

実践事業名	事業内容	事業区分	方向性	27年度最終評価	28年度最終評価	29年度最終評価	30年度の方針	30年度実践事業実績 ※実績は平成31年3月末現在	部会最終評価 (達成状況)	部会評価理由
1 雪処理への支援			重点	3	4	4			5 4 ③ 2 1	
(1) 福祉除雪サービスの実施	高齢者や障がい者世帯等を対象に、公道除雪後に残された玄関前・車庫前の置き雪を除雪専用車で横に置き換える作業を実施	市受託事業	継続	3	4	4	実施	【実施期間】30年11月1日～31年3月31日 【実施内容】9月上旬に自治会へ回覧による事業の周知、29年度利用者へ申込の案内、社協だより30年10月号で事業内容を広報し、利用者取りまとめを行った。 【契約事業者】江別環境整備事業協同組合 【結果】31年1月末日利用世帯数739世帯(29年度750世帯) ・江別市及び組合と利用料金について協議。30年度は据え置くことで決定。 ・30年12月8日の公道除雪日よりサービス開始。 ◆今後実施予定 来年度以降の利用料金については、改めて検討することが決定。	5 4 ③ 2 1	利用世帯のサービスに対する様々な意見や申し出に対し、組合と連携し対応。
(2) 除雪派遣サービスの実施	高齢者や障がいのある方等を対象に、公道除雪出動日に除雪作業員が玄関から道路までの通路の除雪を実施	自主事業	継続	3	4	4	実施	【実施期間】30年12月1日～平成31年3月31日 【実施内容】29年度利用者への申込の案内、社協だより30年10月号に事業内容を広報し、利用者取りまとめを行った。 【契約業者】江別市シルバー人材センター他 【結果】 利用世帯数144世帯(29年度155世帯) ・シルバー以外に独自に作業員の確保やサポートセンターこねくと等の協力も得て対応。また札幌勤労者企業組合とも業務委託契約を締結したほか、登録ボランティア等を通じて協力を呼びかけ作業員を確保し、利用対象全世帯についてサービス提供を可能にした。 ・人件費の上昇傾向を踏まえ、30年度作業員報酬を1,030円/回から1,200円に改定した。これに伴い、利用料も400円から500円に改定。	5 4 ③ 2 1	・全ての利用世帯に対し、事業所や個人等の協力を得て、作業員を確保し支障なく実施。 ・今後も利用世帯の増加に備えて作業員の確保に努めることが必要。

<p>(3)「えべつ雪の処理情報誌」の作成</p>	<p>市民の様々な除排雪の要望に対応するため、除排雪や屋根の雪降ろしなど雪処理を行う事業所の情報を掲載した情報誌を作成し、公共施設への設置や自治会への提供を実施</p>	<p>自主事業</p>	<p>継続</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>実施</p>	<p>冬の困りごと「雪処理問題」を解消する一助として、雪処理を行う事業者を調査したものをまとめた情報誌を発行。10月上旬に市内全自治会へ回覧、主要公共施設等18カ所へ配置、ホームページへの掲載により市民に情報提供。 【掲載協力事業者】31社(29年度32社) ・見やすい誌面づくりに努め、多数寄せられた除排雪の問題に対して有効に活用。 ・商工会議所を通して新規掲載について働きかけ。 ・雪処理を行う事業者一覧を社協日より30年10月号に掲載。</p>	<p>5 4 ③ 2 1</p>	<p>予定通り実施。</p>
<p>2 高齢者・障がい者給食サービスの実施</p>	<p>疾病・障がいにより、食事の支度が困難なひとり暮らし高齢者・高齢者夫婦世帯等の食生活の安定と健康保持のため夕食を安否確認も得て提供</p>	<p>市受託事業</p>	<p>継続</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>実施</p>	<p>【配食数】73,119食(29年度77,612食) 【登録世帯数】254世帯 284人(29年度268世帯 297人) ・配送と同時に安否確認を実施しており、配達員が不審に感じた場合、社協へ連絡があり、事前に登録している緊急連絡先への連絡や関係機関との連携により緊急時の対応を図っている。 ・調理事業者の選択制や利用者の身体状況による糖尿食・透析食等も配食。 【胆振東部地震対応】 30年9月6日(木)地震発生後、停電・断水、食材納入のストップ等により調理事業者サイドで調理が困難となり、通常配食はできなくなったものの、おにぎりやおかゆと社協が確保した非常食(うどん等)を配食し対応。30年9月11日(火)以降完全な通常配食体制に戻る。</p>	<p>5 ④ 3 2 1</p>	<p>・予定通り実施。 ・地震発生後も調理事業者と協働し、通常の食事内容までには至らないものの食事を途切れることなく毎日配食。</p>
<p>3 障がい児者移動支援事業の実施</p>	<p>障がいにより移動が困難な方の社会生活上必要な外出・余暇活動・社会参加等の介助のためのガイドヘルパーを派遣</p>	<p>自主事業</p>	<p>重点</p>	<p>4</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>実施</p>	<p>江別市が障がい福祉サービス支給を決定した身体・知的障がい児者の外出等の介助のために、ガイドヘルパーを派遣。ガイドヘルパー数30人、ガイドヘルパー利用者数17人。 【利用件数】818件(29年度769件) ：主に、健康・体づくりや余暇活動等のための外出等 【胆振東部地震対応】 30年9月6日(木)の利用の中止連絡。</p>	<p>5 4 ③ 2 1</p>	<p>予定通り実施。</p>
<p>4 福祉機器の貸与</p>	<p>疾病、怪我等により一時的に必要な場合に福祉機器を貸与。また健康に不安のある方々へ緊急時の連絡用として福祉ベルを設置</p>	<p>自主事業</p>	<p>継続</p>	<p>3</p>	<p>4</p>	<p>4</p>	<p>実施</p>	<p>【貸与件数】 車椅子1,154件、手動ベッド137件、電動ベッド510件、歩行器180件 合計1,981件(29年度2,163件) ・前述の業界団体及びしごとサポートセンターこくり利用者による車椅子整備を通じた社会貢献活動や学校のリングブル収集による車椅子寄贈等市民の事業への認識が定着して来ている。 ・江別市高齢者クラブ連合会、江別西ロータリークラブ、末日聖徒イエス・キリスト協会から福祉機器の寄贈有り。 【福祉ベル設置状況】 12件(29年度11件) *30年度の設置件数5件、取り外し件数4件</p>	<p>5 ④ 3 2 1</p>	<p>福祉機器の台数確保及び点検整備に学校や企業の社会貢献活動がマッチングし、大変多い貸与申請に対応。</p>

5 北光保育園・野幌季節保育所の運営	農村地域等の保育に欠ける児童の子育て支援の一環として、北光保育園・野幌季節保育所を運営	市補助事業	継続	4	4	4	実施	<p>【保育児童数】 北光保育園 2歳7人、3歳6人、4歳10人、5歳6人 計29人(29年度38人) 野幌季節保育所 2歳3人、3歳1人、4歳0人、5歳3人 計7人(29年度8人) ・父母会からの要請に基づき27年度から開始した北光保育園の冬期保育時間の5時までの延長及び野幌季節保育所の年長児の北光保育園での冬期間の受け入れを引き続き実施。 【胆振東部地震対応】 地震発生の日(30年9月6日(木)から8日(土)まで)まで停電・断水の影響と安全面を考慮し休園。10日以降通常保育。</p>	5 ④ 3 2 1	・支障なく運営するとともに、利用者のニーズに対応した保育を実施。 ・特に、これからの野幌季節保育所の在り方については、市及び父母の会と協議必要。
全体評価				3	4	4			5 ④ 3 2 1	

【基本計画6 地域に信頼される社協運営のための組織づくり】

実践事業名	事業内容	事業区分	方向性	27年度 最終評価	28年度 最終評価	29年度 最終評価	30年度 の方針	30年度実践事業実績 ※実績は平成31年3月末現在	部会最終評価 (達成状況)	部会評価理由
1 組織体制の整備				4	4	4			5 ④ 3 2 1	
(1) 行政との連携	第3期市計画との連携・調整により事業を推進するとともに、安定した組織基盤を整備するため、適宜、社協の運営・事業推進上の課題等について市と協議	自主事業	重点	4	4	4	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・市所管課(管理課)担当職員とくらしサポートセンターえべつ相談員が毎週事業の進め方や相談内容等について支援調整会議を開催し協議。【再掲】 ・江別市成年後見支援センターの運営や今後の方針、具体的な後見受任ケースについて、市所管課(介護保険課)と支障なく円滑に実施できるように協議。【再掲】 ・市の「地域イベントへの職員派遣モデル事業」の内容について協議し、江別ふれあい福祉の広場へ市職員4人受け入れ。【再掲】 ・生活支援コーディネーター業務の進め方及び生活支援体制整備事業の実施や周知方法について、市所管課(介護保険課)と具体的な内容について協議。【再掲】 ・胆振東部地震への対応として、福祉センターでの避難所開設及び利用者に支障が無いように社協事業を実施する対策等について市危機対策室と協議。 ・第2期総合社会福祉センター改修等年次計画等に基づき30年6~12月に実施した照明器具更新工事の進捗状況について適宜市所管課(管理課)と協議。 ・31年度に予定の非常用発電機更新の工事内容や経費について、市所管課(管理課)との協議結果に基づき予算措置を要求→結果0査定となったことから、令和元年度以降のことについては市と改めて協議。 ・センター改修計画以外の来年度の社協予算要求内容についても市所管課(管理課、介護保険課及び財政課等)と協議→ほぼ要求額どおり内示。 	5 ④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・市受託事業を中心に業務が効果的かつ円滑に実施できるよう必要に応じて市と協議。 ・胆振東部地震に際しても市と連携し災害対策を実施。

(2) 部会・委員会組織の活性化	総務・地域福祉の各部会及び合同部会を定期的に開催し、当協議会の運営・事業の質の向上を図るため、その意見を反映、また、広報編集委員会、福祉金庫管理委員会を必要に応じて適宜開催	自主事業	継続	3	3	3	実施	<p>【開催状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報編集委員会 4 回 (30 年 7 月号、10 月号、31 年 1 月号、4 月号の編集) 【再掲】 ・ 福祉金庫管理委員会 1 回 (長期滞納世帯の償還金免除) 【再掲】 ・ 江別市成年後見支援センター受任調整会議 6 回 (法人後見受任案件についての審議・決定) ・ 災害対策会議 1 回 (災害対策計画及び災害ボランティアセンター運営マニュアル等の一部改正) ・ 合同 (総務・地域福祉) 部会 2 回 (第 3 期地域福祉実践計画の進捗状況の審議と意見聴取) 	5 4 ③ 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の目線にたった委員会や部会の意見が社協事業内容に反映。 ・ 受任調整会議においては後見活動に係る専門職の意見を反映。
(3) 役職員などの研修・資質向上				4	4	4			5 ④ 3 2 1	
ア. 役員・評議員研修の実施	タイムリーな地域福祉の動向や話題等について理解を深めることを目的に、役員・評議員研修を開催	自主事業	継続	4	4	3	実施	<p>【役員・評議員研修】</p> <p>【開催日】 30 年 11 月 4 日 (日)</p> <p>【内容】 29 年度研修の際に実施したアンケートの結果において、研修内容として希望の多かった成年後見制度についての研修を実施。内容は、ノンフィクションライターによる「おひとりさまの認知症と成年後見制度～認知症の友人を任意後見人として支えて～」というテーマでの講演と質疑応答。</p> <p>【参加者数】 36 人</p> <p>* 市から受託の成年後見制度普及啓発業務の一環として一般市民を対象に開催した成年後見制度講演会を当研修に位置付し実施。</p>	5 4 ③ 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役員等の希望内容に沿って実施。 ・ 社協を取り巻くタイムリーな課題と研修内容を結び付けることにより、役職員が共通認識を持つとともに、専門性を高めることに効果有り。
イ. 職員の資質向上	職員の専門性を高めるため研修に派遣	自主事業	継続	3	4	4	実施	<p>【職員研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 江別市成年後見支援センター相談支援員 1 人を 30 年 8 月 18 日 (土) ～9 月 2 日 (日) の期間中の 4 日間、「法人後見従事者養成研修 in 札幌」に派遣。 ・ 研修年次計画に基づき、くらしサポートセンターえべつ相談支援員 1 人が 30 年 10 月 9 日 (火) ～10 日 (水) 開催の「コミュニティソーシャルワーク (GSW) 実践者養成研修」に参加。 <p>【胆振東部地震対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 胆振東部地震により被災したむかわ町の災害ボランティアセンター (むかわ町社協) 運営支援のため、北海道災害ボランティアセンターから道内市町村社協に対する派遣要請に基づき、30 年 9 月 15 日 (土) から 5 週間にわたり職員 7 人を交代で派遣。 ・ その他、各職員の担当業務に応じた研修に適宜派遣。 	5 ④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ これからの社協の課題と研修内容を結び付けることにより、職員の専門性とスキルを高めることに効果有り。 ・ 職員が被災地で災害ボランティア活動や災害ボランティアセンターの運営を経験したことは今後の社協防災・災害対策の推進に大きな効果有り。

2 財源基盤の整備				3	3	3			5 4 ③ 2 1	
(1) 会員会費制度の定着・促進	自治会・福祉団体・施設・事業所等に、当協議会への理解と協力を得るため、関係会議での説明等積極的な啓発活動を行い、加入を促進	自主事業	重点	3	3	3	実施	<p>市民・福祉団体等との協働を進めるうえで基本となる会員会費の周知と協力を依頼。</p> <p>【会員会費納入状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1種会員会費：160自治会中157自治会（38,395世帯）から11,319,100円納入。 ・第2自治会（1,053世帯）が29年度200円から300円で納入。 ・第1自治会（68世帯）が29年度未納から300円で納入。 ・第1自治会（27世帯）が29年度同様250円で納入。0 ・第3自治会（1,147世帯）が29年度同様200円で納入。 ・第1自治会（274世帯）が29年度同様150円で納入。 ・第1自治会（169世帯）が29年度同様50円で納入。 ・第2種会員（施設）会費：43会員施設中41会員施設281,000円納入。 ・第3種会員（団体）会費：91会員団体中90会員団体280,000円納入。 ・第4種会員（特別）会費：678個人・事業所から1,251,000円納入。 	5 4 ③ 2 1	第1種会員会費で定額（1世帯300円）未満の納入から定額納入の自治会が増加した。今後更に理解と協力を求めていくことが必要。
(2) 社会福祉基金の積立・運用	寄付金を社会福祉基金として積立、元金が保証される公共等により安全・確実に運用し、利息を事業財源に充当	自主事業	継続	3	3	3	実施	<p>【寄付金積立金合計額】 135,955,632円</p> <p>【利息積立金合計額】 5,288,635円</p> <p>【30年度寄付実績】72件 7,352,547円</p> <p>*江別市に在住していた方（故人）の遺志に基づき、その遺産相続人（代理人）と複数回にわたり当協議会への寄付額について協議、その結果、5,000,000円を社協へ寄付。</p> <p>【寄付金積立金運用方法】</p> <p>公共債、金融機関定期預金等により29年度に引き続き、安全・確実に運用。</p> <p>また、総合社会福祉センター改修計画に基づき、照明設備（LED化）更新工事費に充当するため、大口定期預金10,000,000円を解約。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共債運用 100,000,000円（年利率1.662%） ・大口定期預金 10,000,000円（年利率0.010%） 10,000,000円（年利率0.010%） 10,000,000円（年利率0.010%） <p>計30,000,000円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金融機関定期預金等 5,955,632円 <p>【寄付金積立金の照明設備更新工事充当額】13,952,400円</p> <p>【利息積立金の運用方法及び事業充当額】</p> <p>定期預金・普通預金により運用し、30年度は、5,723,846円を除雪派遣サービス、ボランティア活動推進・団体育成等に充当。</p>	5 ④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・基金の運用方針通り、寄付金を安全確実に運用。 ・遺産に関する協議の結果、高額の寄付金を受領。 ・寄付金積立金を活用し、計画どおり大規模改修工事を実施。
(3) 共同募金からの助成金の確保	共同募金からの助成金の確保に努め、事業財源として有効に活用	自主事業	継続	3	3	3	実施	30年度の募金実績から31年度の社協事業へ、共募助成金として895,783円（3事業）、歳末助成金として1,020,000円（2事業）を確保。	5 4 ③ 2 1	事業に支障のない助成金を確保。
(4) 一般寄付金の活用	寄付金を直接、当該年度の事業に充当できる制度として有効に活用	自主事業	継続	4	3	3	実施	<p>【寄付実績】 38件 1,089,316円</p> <p>*特に、高齢者クラブ連合会女性部から寄付金400,000円で、電動ベット1台、福祉ベル4台、電動空気入1組購入。一般財団法人北海道信用金庫ひまわり財団からは、例年通り100,000円寄付。福祉機器貸与、除雪派遣サービス等に充当。</p>	5 4 ③ 2 1	福祉機器購入や福祉サービスの財源として有効に活用。

<p>(5) 各種事業コストの検討</p>	<p>事務事業のコストの適正化及び受益者負担のあり方を検討</p>	<p>自主事業</p>	<p>継続</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>実施</p>	<p>事務事業の改善の中で、一体的に検討。 <ul style="list-style-type: none"> ・市所管課（介護保険課）及び江別環境整備事業組合とともに福祉除雪サービス利用料金の改定について検討。30年度は料金据え置きが決定。【再掲】 ・除雪派遣サービスの作業委託費（人件費）の増に伴い利用料金を改定。その結果、作業1回当たりの利用料を400円から500円に改定。【再掲】 ・福祉センター照明器具更新（LED化）を実施。利用環境の整備と経費の効率化（電気料金の削減）大きな効果有り。 ・法人後見事業の長期的かつ円滑な実施という視点に立ち、31年度から後見業務にご協力をいただく後見支援員への報酬について、被後見人1人への支援1時間当たり950円から1日当たり950円に改定。 </p>	<p>5 4 ③ 2 1</p>	<p>今後も利用料金及び委託料・契約料の適正化について適宜検討が必要。</p>
<p>3 事務事業の改善</p>	<p>事務事業を精査し、内容の改善と経費の効率化</p>	<p>自主事業</p>	<p>継続</p>	<p>3</p>	<p>4</p>	<p>4</p>	<p>実施</p>	<p>・30年4月から職員の職務の実績や能力が公平かつ客観的に評価する仕組みとして人事評価制度を正式導入。 <ul style="list-style-type: none"> ・市民により見やすく、わかりやすく福祉情報を提供するためホームページをリニューアル。30年6月25日（月）より運用開始。 ・30年9月14日（金）平成30年度第1回災害対策会議を開催し、事務局体制の改編及び職員数の増等の要因に伴い、災害対策計画及び災害ボランティアセンター運営マニュアル等を一部改正。【再掲】 ・福祉センター照明器具更新（LED化）を実施。利用環境の整備と経費の効率化（電気料金の削減）に大きな効果有り。 <p>【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同（総務・地域福祉）部会の実践計画評価に合わせて事務局で事業評価を実施。進捗状況や内容を自主点検し、改善を図る。 </p>	<p>5 ④ 3 2 1</p>	<p>・組織及び事業の活性化を図るための改善対策を実施。</p>
<p>4 総合社会福祉センターの管理運営</p>	<p>ボランティア団体をはじめ、様々な福祉団体等が利用する地域福祉の拠点施設として運営、また、施設の長寿命化を図るため改修等年次計画に基づく改修を実施</p>	<p>市補助事業</p>	<p>継続</p>	<p>4</p>	<p>4</p>	<p>3</p>	<p>実施</p>	<p>地域福祉の拠点施設として、また、高齢者が集う交流の場として運営。 <p>【利用状況】 利用延人数 47,742人（29年度 46,858人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期江別市総合社会福祉センター改修等年次計画に基づき、照明器具更新（LED化）工事を実施。 <p>【胆振東部地震対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震発生の30年9月6日（木）と7日（金）は停電・断水の影響と安全面を考慮し休館。 ・30年9月6日（木）から9日（日）まで市危機対策室からの要請と協議に基づき避難所開設【再掲】。職員が早朝・深夜も含め交代でセンター常駐。 ・市への31年度予算要求で査定漏れとなった非常用発電機更新工事については、改めて令和2年度以降の実施に向けて市と協議。 </p>	<p>5 ④ 3 2 1</p>	<p>・照明器具のLED化により利用環境整備と経費の効率化（電気料金の削減）を実現。 <ul style="list-style-type: none"> ・地震に際して市の災害対策の一環として避難所機能を発揮。 </p>

5 防災・災害対策の推進	当協議会災害対策計画に基づき、万が一に備えた防災・災害対策を推進、平常時から啓発活動、訓練を実施	自主事業	☆新規	3	3	3	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・社協の災害時の役割である災害ボラセンの運営マニュアルをホームページに掲載中。 ・社協事業活動の説明や消費者のひろば、生涯学習フェスティバル等の各種イベントで災害ボラセン運営マニュアル概要版を配布し役割をPR。 ・新規会員登録団体に災害ボラセン運営マニュアル概要版を提供。 ・30年7月25日（水）開催江別市防災会議に社協会長が出席。市地域防災計画中の災害ボランティアセンターの役割に関する条文がより具体的な内容に改訂。 ・災害ボラセンとしてボランティアとともに30年9月2日（土）実施の江別市防災総合訓練に参加し啓発活動。 ・30年9月14日（金）平成30年度第1回災害対策会議を開催し、事務局体制の改編及び職員数の増加等の要因に伴い、災害対策計画及び災害ボランティアセンター運営マニュアル等を一部改訂。【再掲】 ・道社協主催の30年11月6日（月）開催「平成29年度石狩地区災害ボランティア組織連携会議」に職員を派遣し、北海道災害ボランティアセンターの取り組みや災害ボラセンの具体的な活動事例について研修。 ・30年9月5日（水）の台風21号及び6日（木）発生の北海道胆振東部地震災害に際して事業実施に支障が無いように対策を講じるとともに、福祉センターでの避難所開設等市の災害対策に協力。【各事業の実績欄に内容掲載】 ・31年3月25日（月）総合社会福祉センター利用者の協力を得て火災消防訓練を実施。 	5 ④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアセンターの役割を市内イベント等で積極的にPR。 ・台風及び地震に際して事業実施への影響を極力抑えるための対策を実施。 ・災害ボランティアセンター運営マニュアルや災害対策計画を現状に見合う内容に改訂。 ・今後も被災地で実際に運営された災害ボランティアセンターにおける効果的な取り組みや対応事例について情報収集し、マニュアルの内容を適宜改善することが必要。 	
6 地域福祉実践計画の進行管理	総務・地域福祉部会において、計画が適正に推進されているかどうかを毎年度評価	自主事業	継続	4	4	3	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・30年9月20日（木）第1回合同（総務・地域福祉）部会において、第3期実践計画の29年度の進捗状況の最終評価を審議・決定。 ・30年2月25日（月）第2回合同（総務・地域福祉）部会において、第3期実践計画の平成30年度の進捗状況の1回目の評価を審議・決定。 	5 4 ③ 2 1	実践計画の評価を実施する中で、今後対応すべき課題や重点的に取り組むべき事業を明らかにすることができた。	
全体評価						4	4	3		5 ④ 3 2 1	

4. 評価内容（参考）

（1）評価の基本

- ①委員全員が実践事業毎に評価を実施
- ②事務局評価の内容も参考に総合的な評価を実施

（2）評価の手順

I 評価資料の事前送付

- ①事務局は合同部会の開催前に地域福祉実践計画の1回目の事務局評価も記載した評価資料を各委員に送付する。
- ②各委員は、評価資料を合同部会までに内容を閲覧のうえ、部会当日持参する。

II 合同部会当日

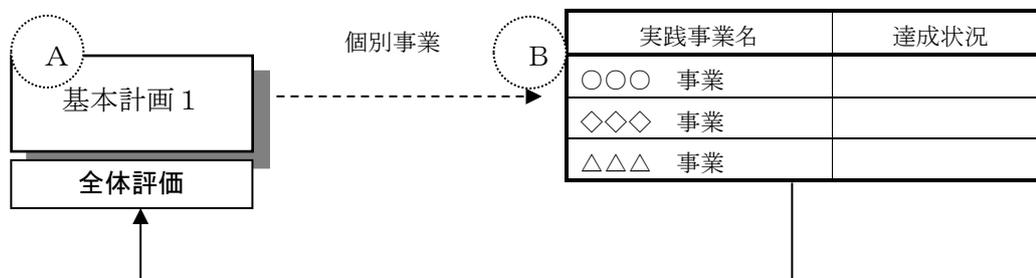
- ①事務局は、部会開催前に各委員へ基本計画毎の進行管理（評価）記入表を配布する。
- ②事務局は、議長の指名を受けて基本計画毎に各実践事業の内容等について、特に必要と思われる事項を説明する。
- ③各委員は、意見や質問等が終わったのち、進行管理（評価）記入表にそれぞれ実践事業毎の評価を記入する。
- ④各委員が記入した進行管理（評価）記入表は、事務局において基本計画毎に回収し速やかに集計算出し部会評価の結果を出す。なお、部会評価は、実践事業及び基本計画とも各委員の評価の平均点とする。この場合の平均点は、小数点以下を四捨五入する。
- ⑤部会評価終了後、事務局から集計算出した実践事業及び基本計画の進行管理（評価）結果総括表を各委員へ配布する。
- ⑥事務局から評価結果の概要について説明後、合同部会は、事務局評価と比較検討したうえ1回目の部会評価を決定する。この場合、事務局に事務局評価の事由等の説明を求めることができる。また、委員は実践事業の改善点や検討課題について意見を述べるものとする。

★評価の具体的な手法

- ・基本計画ごとの実践事業（個別事業）それぞれの「達成状況」の評価を実施。[B]
- ・次に、基本計画ごとの実践事業の「達成状況」の評価の合計得点を実践事業数で割り、「当該基本計画」の全体評価を実施。[A]

例：基本計画に含まれる実践事業が3事業で、個々の事業の評価が、5、3、3だった場合の全体評価

$$(5 + 3 + 3) \div 3 \text{事業} = 3.67 \text{ (小数点以下四捨五入)} = 4$$



（3）評価の基準

個別の実践事業について、実績や内容を点検し、当該年度に目標として定めた方向性や指標の数値などと対比し、計画どおり推進されているか等について点検し、その結果について「評価」を行い、更に実践事業の評価内容に基づき、基本計画を評価。

■実績増や内容改善により、方向性や指標を大幅に上回ったと判断される場合は、「達成状況5」の評価

- 「達成状況 5」の評価には及ばないものの実績増や内容改善が見受けられたと判断される場合は、「達成状況 4」の評価
- ほぼ支障なく推進されたと判断される場合は、「達成状況 3」の評価
- 実績減や課題が生じるなど順調ではなかったと判断される場合は、「達成状況 2」の評価
- 未実施(未着手)あるいはそれに近い状況だったと判断される場合は、「達成状況 1」の評価

★評価区分表

実践事業の個別評価及び基本計画の全体評価は、次の 5 段階の区分による。

評 価 内 容	達成状況 (得点)
非常に評価できる (予定を大幅に上回り推進された)	5
かなり評価できる (予定を上回り推進された)	4
普通に評価できる (予定どおり推進された)	3
少し評価できる (順調に推進されなかった)	2
ほとんど評価できない (全く推進されなかった)	1

成年後見制度利用の相談窓口

江別市社会福祉協議会

江別市成年後見支援センター

専門の相談員が、高齢の方や障がいのある方が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、成年後見制度利用のお手伝いをします。お気軽にご相談ください。

月～金曜日 8時45分～17時15分

☎ 375-8988

メール kouken@ebetsu-shyakyo.jp

生活にお困りの方の相談窓口

江別市社会福祉協議会

くらしサポートセンターえべつ

専門の相談員が、自立した生活が送れるように一緒になって考え、支援します。お気軽にご相談ください。

月～金曜日 8時45分～17時15分

☎ 375-8987

メール kurasapo@ebetsu-shyakyo.jp

社会福祉法人 江別市社会福祉協議会

〒069-0811 江別市錦町 14-87 江別市総合社会福祉センター内

電話 011-385-1234 FAX 011-385-1236

ホームページ www.ebetsu-shyakyo.jp

メール Social-Welfare@ebetsu-shyakyo.jp

